



リウマチ科みやもと 院長 宮本茂輝

〒526-0034 滋賀県長浜市弥高町 269 番

TEL : (0749)53-3887 / FAX : (0749)53-3877

URL : <https://rheumatoid-arthritis-miyamoto.jp>



↑
ホームページは
こちらか



♡ リウマチ豆知識 ♡



～「関節エコー」がリウマチ診療に必要不可欠な理由とは？～

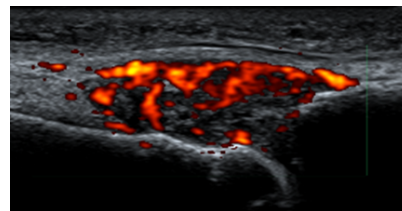
今回は約1年半ぶりに、「関節エコー」のお話をしようと思います。

エコーは、循環器科（心臓）・消化器科（肝臓・胆嚢・膵臓）・耳鼻咽喉科（甲状腺）・婦人科（子宮・卵巣）など、あらゆる診療科で使用される侵襲性のない検査です。おそらく、病院であればどの施設でもエコー機器は設置されているでしょう。関節リウマチ（RA）診療においても、関節エコーは最早欠かすことのできない重要な検査です。

関節エコーをRA診療に取り入れることで生まれるメリットを挙げてみましょう。

【その1】滑膜炎を描出できる。

関節リウマチ（RA）は、関節滑膜に炎症（＝滑膜炎）をきたす疾患です。つまり、その診断のためには、滑膜炎の存在を証明する必要があります。（ただし、滑膜炎をきたす疾患はRAに限りませんので、滑膜炎があったからといって直ちにRAと診断できるわけではありません）



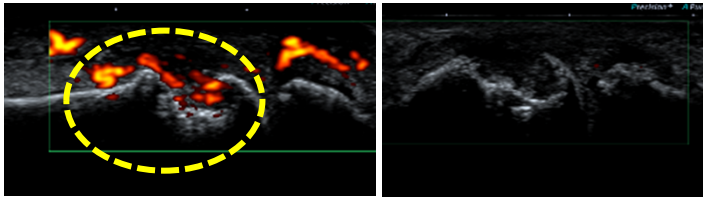
「滑膜炎があるかどうかは、MMP-3で判断できるんじゃないの？」と思われる方がおられるかもしれませんが、MMP-3は手指・手・足趾などの小関節に滑膜炎があっても上昇することはほとんどありません。また、腎障害やステロイドが投与されている状況では、MMP-3は偽陽性となるため、結果の解釈には注意が必要です。

また、レントゲンでは滑膜はもちろん映りませんので、関節局所における滑膜炎の存在を判断する上で、関節エコーは適したモダリティなのです。

【その2】治療反応性を評価できる

「リウマチって、CRP・赤沈・MMP-3で評価すればいいんじゃないの？」と思われる方が多いかもしれません。これにつきましては、第2版でも述べました通り、炎症が手指・手・足趾などの小関節に局限している場合には、CRP・赤沈・MMP-3はほとんど上昇しませんので、これらは治療評価のマーカーとして使用できません。一方、関節エコーでは、関節局所の滑膜炎をクリアに描出可能ですので、治療評価にも用いることができます。





【治療前】

【治療後】

左の写真は、第5趾 MTP 関節（足の小指の付け根；RA の好発部位です）のエコー写真です。

治療前の写真（左図）では、肥厚した関節滑膜に一致してパワードプラにて血流シグナルを認めます。骨びらん部（黄色の点線内）にも血

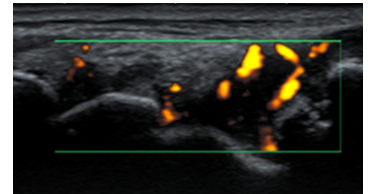
流シグナルを認めており、これを放置すると関節破壊が進行し、足趾の変形につながる可能性が非常に高いのですが、CRP0.03mg/dl と正常です。「CRP・赤沈・MMP-3 だけで RA を評価してはいけない」と、私が当院ホームページやブログで力説しているのはこのためなのです。治療後の写真（右図）では、滑膜肥厚は残存するものの、血流シグナルは消失しています。

【その3】患者教育に用いることができる。

RA 診療において、関節の痛みが強いと「リウマチの状態は悪い」、関節の痛みが軽いと「リウマチの状態は良い」と一般的に思われがちですが、必ずしもそうではありません。

RA 患者さんが関節の痛みを訴えられても、それが RA に因るものではなく、変形性関節症や更年期障害など他の病態に因るものという事は日常診療でしばしば経験します。また逆に、関節の痛みが軽度であっても、RA による滑膜炎が高度であるということもしばしば経験します。

右の写真は、手関節のエコー写真です。痛みはほとんどないと患者さんは言われますが、中等度以上の滑膜炎を認めます。ちなみに、CRP0.03mg/dl と正常です。



この状態を、「痛みがない」「CRP 上昇がない」という理由で放置してしまうと、関節破壊が進行する可能性が高いため治療強化が必要です。「痛みもないし炎症反応も正常なのに、何で治療強化が必要なの？」という患者さんからの疑問に対しても、「関節エコー」があれば視覚的に説得力を持って答えることができます。

では、エコーの機器がそこにあれば誰でも扱えるものかと言いますと、そういうものではありません。エコーを実施するためにはかなりの技術を要します。数日や数週間で技術を習得できるものではありません。RA 診療において関節エコーを実施できる医師は限られます。残念ながら、リウマチ専門医であっても関節エコーができるのは少数派（日本リウマチ学会には「登録ソノグラファー」という制度があります。当院では私と看護師の計2名が資格を有しています）です。また、関節エコーができる医師であっても、本当は関節エコーで状態を確認したいと思っていながら、多忙な外来診療で診療時間が限られるがために、関節エコーができないという状況も多々あります。

当院では関節エコーを RA 診療に取り入れ、より質の高い医療を提供できるよう心がけています。

彦根医師会学術講演会で講演させていただきます❄️



10/24 湖北医師会学術講演会で、「関節リウマチ診療のピットフォール」と題して今回のリウマチだよりのテーマである関節エコーを含め、お話しさせていただきました。

来年 2/1 には、彦根医師会学術講演会で、同じテーマでの講演をさせていただきます。何卒宜しくお願い致します。

